



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 湯浅一郎 / 住所: 〒 223-0062 横浜市港北区日吉本町 1-30-27-4 日吉グリーンネ1F
TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.44

2019.7.1

「SDGs (持続可能な開発目標)」

「SDGs (持続可能な開発目標)」 担い手としてのピースデポ

山中 悦子 (ピースデポ共同代表)



危機 「この世界はこのままの状況が続くと間もなく終わりを迎える。持続不可能である。」 今、この言葉を大げさなこと、ばからしいことと一笑に付す人はいないと思います。人々はあらゆる場面でそう感じているからです。化石燃料に依拠した私たちの暮らしが温暖化・気候変動をもたらした地球は悲鳴をあげています。南極の氷が溶け水没の危機に直面している国があります。異常気象による干ばつ、洪水、酷暑、豪雪…は、世界各地で大規模災害を引き起こしています。生態系は乱れ、環境は破壊され、76億を超える我々人間もそして動植物も生き続けることがむずかしくなってきました。水、空気、土はさまざまな化学物質で汚染され、食料の安全が脅かされています。国際社会の不平等は、食べることに事欠き十分な栄養をとれず命を失う子どもたちを生む一方で、生産された食料の3分の1を廃棄する飽食社会を出現させています。労働や教育の現場で、家庭で、いびつな社会の中で命を削っている人々がいます。武力紛争、原発、核兵器。途上国先進国を問わず人々が努力して築こうとしている人間の安全保障を一瞬で0にする脅威と隣り合わせの日々。私たちは今断崖絶壁に立たされています。現状をこのままにして人はこれからも生き続けられるでしょうか。地球はこの先ずっと持ちこたえることができるでしょうか。なぜこうなってしまったのか。持続不可能な状況を生み出した原因は何？誰が生み出したのか。どうすれば持続可能な世界に変革できるのか。

SDGs 2015年9月15日の国連総会で193カ国の賛成を得て「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。その中核にあるのがSDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)です。この世界はいつまで持つのか？このままでは持続できないのではないかと。国際社会は危機感を持ってこの状況を変えるために、今すぐ取り組むべき17の目標を定めました。「Transforming our world(私たちの世界を変革する)」「Leave no one behind (誰も置き去りにしない)」が目標を支えるキーワードです。

SDGsはもともと2015年を到達目標として制定されたMDGs (Millennium Development Goals ミレニアム開発目標)を継続充実させたものです。ミレニアムを迎えた2000年に国際社会は途上国が直面している貧困、子どもの死亡率、妊産婦の健康、感染症、教育などの課題を解決する具体的な取り組みをスタートさせました。これらの課題を放置したままでは、テロ、感染症、難民、移民問題など世界中に負の影響が及ぶと認識したからです。そして15年後、SDGsの積み残した課題が先進国側にも共通しているとの認識と、社会の持続可能性を妨げる先進国側の社会、経済の有り様、生産、消費、廃棄に目を向けて、SDGsを設定しました。これから15年かけて2030年までに持続可能な世界を実現する目標を17、それぞれに関わるターゲットを169設定しました。

目標16. 平和と公正をすべての人に ロゴマークは鳩と法廷で使う木槌(ガベル)。「持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」。ターゲット16.1に「あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる」とありますが、ここに核兵器廃絶、武力によらない平和構築の言葉は入りませんでした。国連はともすれば地球益・国際益より国益優先を表明して憚らない各国政府代表が物事を決めていくところ。特に安全保障を錦の御旗に軍事力を拡大し、核抑止論から抜け出せない大国と呼ばれる国々も参加しての国連採択です。この期に及んでも持続可能な世界を構築するために出来る努力は何でもする！とはなりません。しかしピースデポはこの目標16に核兵器廃絶を加えて取り組むことこそが、SDGsの担い手としての役割・責務と心得たいと思います。その意味でピースデポは、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)の「Don't

bank on the bomb(核兵器に金を貸すな)」や、ヨーロッパ議会や自治体議会に核兵器への投資をしない決議を求める「Move the Nuclear Weapon Money」など市民団体の新しい取り組みこそSDGsに貢献するものと考えます。

日本の取り組み 2016年、日本はSDGs推進本部(本部長:内閣総理大臣)を立ち上げ、SDGs実施指針を策定しました。SDGsの取り組みは首相を指揮官として、政府、自治体、企業、市民社会(団体、個人)がそれぞれに始めています。新国立競技場建設で使用する材料は環境に負荷を与えないものにする。銀行は環境に配慮した事業への融資を優先する。自治体はSDGsで地方創生をめざす。誰もが自分に何ができるか考え行動することで、持続可能な世界を実現していきましょう。その時、私たちは政府や権力者に付度することなく、持続可能な開発の主人公は一人一人の私であることを忘れてはなりません。



ピースデポ 第20回総会報告

2019年2月17日(日)川崎市平和館屋内広場において第20回総会を開催しました。

議長は正会員の山口大輔さんが務められました。総会で採択された昨年度の事業報告と決算(所轄庁である横浜市に提出し、情報公開の対象となります)、今年度の事業計画と予算はピースデポウェブサイト<http://www.peacedepot.org/whatspd/actvty/>に掲載しています。

シニア世代を含む幅広い方々の協力を得つつ、次の時代を担う新世代の活動家・研究者の育成を目指しますので、皆様のご協力をお願いします。

総会で決まった今年の主な事業計画

● 事業プログラム

事業分野1 ■核兵器廃絶・不拡散への日本の市民社会からの寄与

- [プログラム1] 「核兵器禁止条約」の発効を促進し、とりわけ日本の署名を促す
- [プログラム2] 地方議会における核兵器禁止条約への署名を求める意見書採択を広げる

事業分野2 ■「北東アジア非核兵器地帯」構想を促進する活動

- [プログラム1] 非核化合意履行・監視プロジェクトの推進
- [プログラム2] 北東アジア非核兵器地帯設立への政策転換を求める外務省への要請
- [プログラム3] 宗教者キャンペーン拡大の支援
- [プログラム4] 自治体首長「北東アジア非核兵器地帯」賛同署名の新たな取り組みの模索

事業分野3 ■次世代を担う新たな人材と出会う場をつくる活動

- [プログラム1] ピースデポ「脱軍備・平和公開講座」(仮)の開催
- [プログラム2] 北東アジア非核兵器地帯等をテーマとした国際ワークショップの開催

[プログラム3] NPT再検討会議第3回準備委員会への若手派遣

事業分野4 ■世界の核兵器、米軍、自衛隊の動向調査

事業分野5 ■出版活動及びアウトリーチ活動

- [プログラム1] 「核兵器・核実験モニター」の発行
- [プログラム2] ワーキング・ペーパーの発行
- [プログラム3] 『イアブック「核軍縮・平和」』の発行
- [プログラム4] 核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)支援
- [プログラム5] ウェブサイト等の改善とネットワークの拡大

● 組織体制の整備

1. 代表2人体制、スタッフの2人体制
2. ピースデポ「7本の柱」・次世代基金(梅林・湯浅基金)の運営
3. ピースデポにオーナーシップをもって関わる人材の拡大
4. 「ピースデポ協力研究員」
5. 会員、モニター購読者の拡大
6. 他機関との研究調査協力と平和活動のコーディネーション
7. 持続可能な助成財源である「よこはま夢ファンド」への協力者の拡大
8. 助成金・調査委託及び寄付金の開拓
9. 事務所コンピューターシステムの近代化の検討



「第20回総会と総会イベントの様子(川崎市平和館屋内広場。2019年2月17日(日))」

欠席会員からの総会へのメッセージ

総会に向けて、今年も多くの会員の皆様から、激励・ご提案をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。メッセージの一部をご紹介します。

- 「核兵器禁止条約」に対する日本政府への態度に要請だけでなく、抗議をしてほしい。
- 全議案に目を通しました。意欲的、具体的、現在の取り組むべき方向性と課題をつかんだ議案文章となっていました。敬意を表します。困難な状況もでてくることですが、今一番大切なシンクタンクとしての役割があると思っています。頑張ってください。成果を期待します。
- いつも貴重な情報をありがとうございます。『イアブック2018』がタイムリーに出てよかったです。『2015-17』も、3年まとめとはいえ、私はずっと購読してオフィスの本棚のわかりやすい所に並べて利用しています。
- 朝鮮情勢の劇的変化の中、今こそ北東アジア非核地帯構想を前面に出し、包括的枠組みで処理する—これをしないと日本の歴史修正主義、軍拡勢力のばっ

を許すことに！

- 朝鮮半島情勢についての最近の仕事は非常に貴重なものと思います。日本政府が無能であることが国内で少しも問題とされないことは、誠に残念ですけれども。
- 事務局の毎日のお仕事に頭が下がります。体に気を付けてがんばってください。
- 政府の強硬姿勢に、市民社会の無力感が垣間見える中、ピースデポが事例でもって突きつけるアジェンダ、大きな力となると感じます。Power to the people！
- 20年以上、核兵器禁止に焦点を絞って、情報発信してくださっていることに敬意を表します。昨年、私の市でも、時間をかけて多くの市議と会話を重ねるなど、核兵器禁止条約の署名・批准を促す意見書提出に取り組みました。昨年度の東アジアの情勢変化には驚きましたが、

この動きを冷静に監視していく必要性を唱え、実行して下さる発想を素晴らしいと思いました。過去に見ても、国同士、相手がこうしたから、そちらがこうしなかったからと、せっかくの協議の枠が崩壊してきた歴史があります。第三者の目で監視する重要性は納得できます。

- NPTの第6条を活かして核兵器国を追い込みましょう。
- ピースデポの存在と調査活動で得た正確な情報をもっと広い階層や年齢層の市民に知ってほしいですね。
- 今のような時代には地道な活動が重要と考えております。時代に流されない活動を支持いたします。
- 私たちも光を求めて悪戦苦闘しています。ピースデポの存在は励みになります。

ピースデポ第20回総会記念講演会

変わる朝鮮半島！日本の平和運動を問う

2月17日、ピースデポ第20回総会記念講演会「変わる朝鮮半島！日本の平和運動を問う」を川崎市平和館屋内広場で開催しました。

太田昌克さん(共同通信社編集委員、長崎大学客員教授)にご講演いただき、参加者との質問を交えながら、今日の情勢における日本の平和運動のあり方について、議論を深めました。



メディアに登場したピースデポ

- ①「大綱は「国軍方針」に」梅林特別顧問インタビュー① (神奈川新聞、19年1月12日)
- ②「外交で進む道模索を」梅林特別顧問インタビュー② (神奈川新聞、19年1月13日)
- ③「印パ衝突 核廃絶に影」湯浅共同代表のコメント掲載 (東京新聞、19年3月2日)
- ④「核抑止依存の転換を」湯浅共同代表と梅林特別顧問が外務省へ要請(神奈川新聞、19年4月11日)

- ⑤「市民の「心の叫び」こそ原点」梅林特別顧問のコメント掲載(中日新聞、19年5月16日)
- ⑥「戦争に故郷の土、使わせない」湯浅共同代表のコメント掲載 (奄美新聞、19年5月26日)
- ⑦「一体化内外に誇示」梅林特別顧問のコメント掲載 (神奈川新聞、2019年5月29日)
- ⑧「核の傘」依存脱する政策を 日本政府 なぜ容認？」梅林特別顧問のコメント掲載(東京新聞、2019年5月29日)

